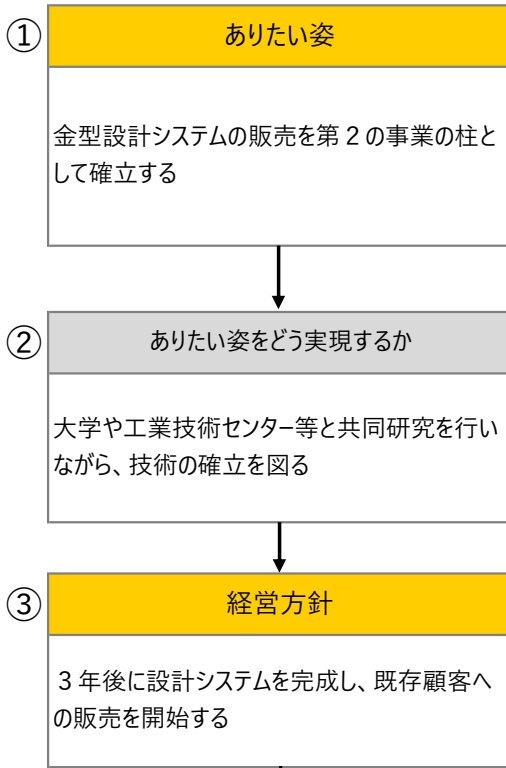


# 無形資産可視化ツール1 将来ビジョン実現ツリー（全社/ 先端技術研究開発支援事業）

**移行戦略/ストーリー**

これまで  
電子部品向けの精密金型の設計、製造を行っている。その中で接続端子等に用いられる微小部品を成形する金型の開発・設計は、社内技術者の知識と経験に基づき人手で行っており設計に時間を要している。この工程の短縮が自社の課題となっている。

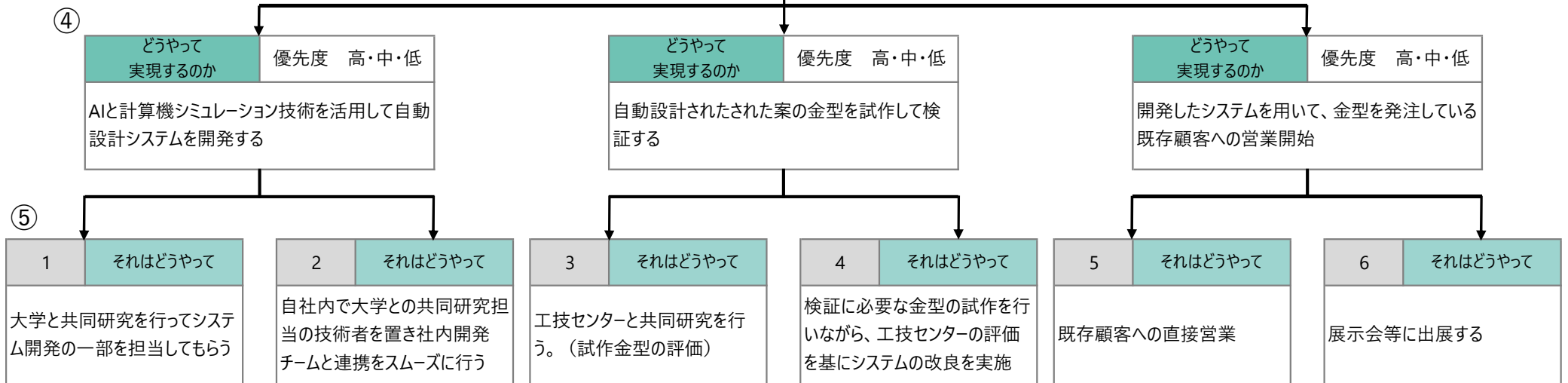
これから  
これまで人手で開発設計していた工程の中で特に金型の試作・評価を繰り返して最適化する工程をAI等の最新技術を用いて自動設計できる金型設計システムを開発し、金型設計の効率化を行いたい。また、開発したシステムを販売し新事業を創出したい。



**市場適合性・市場分析**

誰にどの程度求められているか  
微小部品である●●端子は、年間1000億円程度の大きな需要がある。このような精密部材の需要は高く、それを低コストで製造するための金型へのニーズがある。

ビジネスとしての成立可否、ビジネス上のリスク等について  
同部品は通常は铸造で成型されており、微小部品の金型設計には、ノウハウや試作・評価に要するコストや時間が必要とされる。  
設計ツールがあれば、設計経験の少ない技術者でも開発できるようになり、需要が見込まれる。



③ ④ ⑤ : ツール3へ転記  
① ~ ⑥ : ⑤における優先順位

## 無形資産可視化ツール2 業務フロー・商流表（先端技術研究開発支援事業）

☑	これまでの価値創造プロセス	主に電子部品向けの精密金型の設計、製造を行っており、特に超精密加工が可能な工場設備や加工技術などを活用して、顧客から依頼された図面どおりの金型を製造できる技術力がある。
☑	これからの価値創造プロセス	金型を自動設計するシステムを開発し、従来からの金型設計・製造に加え設計システムの販売を行い新たな事業を創出する。

		研究計画・補助金応募	研究実施	自社内での実証試験	金型設計の営業	受託事業の実施
ヒト	社内キーパーソン	常務 ○○	金型設計課 ○○ ○○	金型製造課 ○○、 製造課 ○○	営業課 ○○ ○○	
	社外キーパーソン	●●大学 ○○教授 工技センター △△研究員	●●大学 ○○教授 工技センター △△研究員	●●大学 ○○先生		
モノ			試作用金型	実証用金型		
カネ			共同研究費、試作研究費のための補助金	← 先端技術研究開発支援事業 →		
情報	知的財産権 (特許・商標・意匠など)		特許申請			
	その他の無形資産	精密加工企業へのニーズ情報	設計ノウハウ、開発するシステム等	金型設計、加工ノウハウ等	得意先のニーズ情報	様々な案件の金型設計ノウハウ等
無形資産の 獲得・強化に向けた打ち手 KPI管理表へ転記		大学・工技センター、支援機関への相談	共同研究等の実施内容の打合せ、役割分担等の整理	実証データの蓄積		

凡例	現在保有する無形資産	：黒字で記載
	上記のうち重要な無形資産	：太字にて表示
	将来必要な無形資産	：赤字での記載

## 無形資産可視化ツール3 KPI管理表（先端技術研究開発支援事業）

経営方針 将来ビジョン実現ツリー③を転記	打ち手 (大分類) 将来ビジョン実現ツリー④を転記	目標設定		打ち手 (中分類) 将来ビジョン実現ツリー⑤を転記	打ち手 (小分類) 業務フロー・商流表の「打ち手」を転記	目標設定	
		KPI (目標値)	現在値			KPI (目標値)	現在値
<b>経営方針</b>  3年後に設計システムを完成し、既存顧客への販売を開始する	AIと計算機シミュレーション技術を活用して自動設計システムを開発する	・大学との共同研究の開始 ・本補助金を活用して販売が可能な設計システム（完成品）の70%の完成度を目標	・自社のみで開発 ・社内業務と重なり開発が遅れている	大学と共同研究を行ってシステム開発の一部を担当してもらう  自社内で大学との共同研究担当の技術者を置き社内開発チームと連携をスムーズに行う	共同研究等の実施内容の打合せ、役割分担等の整理  大学・工技センター、支援機関への相談	・研究計画を策定 ・共同研究の実施 1件	・担当教授へのメール相談
		・工技センターとの共同研究開始	・試作まで行ったが、評価・検証が実施できていない	工技センターと共同研究を行う。（試作金型の評価）  検証に必要な金型の試作を行いながら、工技センターの評価を基にシステムの改良を実施	共同研究等の実施内容の打合せ、役割分担等の整理  大学・工技センター、支援機関への相談	・研究計画を策定 ・共同研究の実施 1件	・担当部署への相談および打合せ中
	自動設計されたされた金型を試作して検証する	・工技センターとの共同研究開始	既存顧客への直接営業	直接営業	・直接営業：5件		
	開発したシステムを用いて、金型を発売している既存顧客への営業開始	・3年後に試作品の展示、顧客への営業開始	・現状では営業できる製品がない	展示会等に出展する	・展示会等出展：3件		

黄色の箇所のみをご記入ください。